

## 令和3年度第2回川崎市農業振興計画推進委員会議事録（摘録）

- 1 開催日時 令和3年11月15日（月）9時30分～11時40分
- 2 開催場所 川崎市都市農業振興センター（高津区梶ヶ谷2-1-7）3階会議室
- 3 出席者
  - 出席委員（16名 ※書面意見申出3名含む）  
竹本委員、徳田委員（書面）、梶委員、越畑委員、長谷川委員、土志田委員、新堀委員、  
牧野委員（書面）、岩井委員、石井委員、大西委員（書面）、遠藤委員、野村委員、堀委  
員、秋元委員、堀越委員
  
  - 事務局（6名）  
都市農業振興センター所長（齋藤）、  
農業振興課長（伊東）、農地課長（久延）、農業技術支援センター所長（井上）、  
農業振興課農政係長（田中）、農業振興課農政係（坂東）
- 4 議題（公開）
  - （1）川崎市農業振興計画の中間総括冊子（案）について
  - （2）令和4年度 委員改選について
  - （3）その他（事務連絡）
- 5 傍聴者  
3名
- 6 会議の内容（摘録）
  - 『1 開会・着任者等あいさつ』
    - （1）開会（田中農業振興課農政係長）  
令和3年度第2回川崎市農業振興計画推進委員会の開会を宣言
  
    - （2）開会挨拶（齋藤都市農業振興センター所長）
  
    - （3）配布資料確認、委員会目的及び会議公開の確認（田中農業振興課農政係長）
  
    - （4）新規着任者、野村委員の挨拶

(5) 傍聴者の遵守事項の説明 (田中農業振興課農政係長)

## 『2 川崎市農業振興計画の中間総括冊子 (案) について』

【竹本会長】

事務局から説明願いたい。

【事務局：伊東課長】

【資料 2-2】川崎市農業振興計画中間総括、【資料 2-1】農業振興計画中間総括冊子イメージ、を基に、前回指摘事項含め説明。

【竹本会長】

【資料 2-1】農業振興計画中間総括冊子イメージの最終ページ 8 ページについては後程議論するとして、まずは 1~7 ページについて意見・感想などいただきたい。前回、メリハリについて指摘された岩井委員から発言をお願いします。

【岩井委員】

PDCA サイクルがうまく回っており、メリハリという点は改善されたと思う。また、SDGs に触れた点も良い。しいて言うなら今後 5 年間というところでは「エシカル」という言葉があっても良いかなと感じた。

【竹本会長】

梶委員をお願いします。

【梶委員】

前回に比較してとても良くなった。SDGs については基本戦略 1 から 4 が SDGs17 個の何処につながっていくのか分かると一番良い。

【竹本会長】

SDGs については所長あいさつにもあった農水省の「みどりの食糧システム戦略」とも通ずる持続可能性に関することだが、この時点でどこまで記載するかということだが、キーワードとして触れる必要はあろう。

長谷川委員、この資料の感想は如何か。

【長谷川委員】

基本戦略 2 にある農業振興地域の一つである岡上で営農している自分としては、農業振興地域はいろいろな面で環境変化しており、願わくば、農業振興地域については当推進会議

とは切り分けて、農業振興地域の活性化に特化した議論の場が欲しい。そうした場には柔軟な発想という面から、また、ICT などへの知見ということからも若い世代の参画を期待したい。

**【竹本会長】**

土志田委員は如何か。

**【土志田委員】**

私は農業振興地域の一つである早野で水田をやっているが、高齢化で生産者が減っている。少し前は水田をやっている者が十数名いたが今は私を含め 5 軒。機械化というが、操作するのは人であり、私自身やれるのは後 1~2 年かと考えているが、他の者も大差ないと思う。整備費が不足して 7 か所の農業用溜池のうち 3 か所しか稼働できないことも水田減少の一因となっており、畑に転換するが耕作せずに遊ばせている例が目につく。水田を借り転換してハウスでイチゴ栽培をしている者もいるが、上手くいくか疑問。

**【竹本会長】**

担い手不足についてはまた後程話したい。新堀委員は如何か。

**【新堀委員】**

冊子案はだいぶ改良されて読みやすくなった。難を言えば、3 ページ目の「都市農業基本計画の方向性」のところで、コンパクトシティとかマスタープランなどの馴染みの薄いカタカナについて、分かり易い日本語にして欲しいと思う。

**【竹本会長】**

堀越委員お願いします。

**【堀越委員】**

私もとても読み易くなったと思う。農業振興計画の概要などの隣のページに他施策の動きを配置したので流れが良くなった。

10 年の計画であり大幅に変えるものではないかもしれないが、今後 5 年間で少し見直ししていくということとして、川崎は消費者との距離がとても近いことから、農業生産の様子を消費者にご理解いただき、営農し易い環境を整備するという視点があると思う。例えば農薬のことだとか肥料の匂いについて誤解が生じていることなど解消できれば良い。

**【竹本会長】**

ただ今のご意見を今回の冊子に全部入れ込めるか分からないが、大事なことであり、例え

ば子供向けに別のパンフレットを用意するなども考えられる。

秋元委員お願いします。

【秋元委員】

全体的に良くなったと感じる。前回指摘した農業の多面的機能の記載も強化されているし、最終ページの「農業振興計画推進委員会の意見より」も、川崎市として農業振興計画の推進に努力していることが市民に伝われば良いと思う。

【竹本会長】

堀委員お願いします。

【堀委員】

全体的に見易くなったと感じる。SDGsについてはぜひ入れて欲しい。都市農地があるべきものである理由としての説明としても良いと思う。主に7項目ぐらいが当てはまると思うが、SDGsのマークは市民にも分かり易いので表示できると良い。

今後の方向性の記述について、具体的なものと抽象的記述が混在しているのが気になる。例えば基本戦略1>目標1>今後の方向性は、新規就農者等への技術支援体制の充実の方向性なのに「かわさきつや菜」を特出ししていることに違和感を覚える。

最終ページの円グラフのうちの、特に市内農地面積のグラフについて、データとしては重要なので、もっと見易く工夫した方が良い。

【竹本会長】

野村委員は前回傍聴されていたが、ご意見お願いします。

【野村委員】

SDGsの視点は大切だと思う。私が所属する生協でも地産地消の推進によるCO2の削減や、都市農地が日射を和らげることなどを評価している。

冊子の限られたスペースへの掲載は難しいかとも思うが、子供に対する教育について、パンフレットを配布して終わりではなく、もっと実感できる取組が必要。例えば先日、川崎生活クラブとして政策提案させてもらったが、子供の給食の食材として市内産農産物を使っていますという説明に留まらず、食べた給食の残渣を堆肥化して市内農地に還元するなど、子供たちが自分たちで循環を作るようなチャレンジが大切だと思う。

【竹本会長】

遠藤委員お願いします。

### 【遠藤委員】

冊子としては良くまとまっているが、都市農業の根本的問題に触れていない。高津、中原などを見たときに農地が少ない。住宅街に農地が点在しており、年間農産物販売額 2~3 百万円で永続的に農業をやっているのか、不動産収入で生計を立て趣味で農業をやっているのではないか。給食への食材提供といっても量が全然足りない、都市農地の市民農園としての活用は市民のためにはなっているが農家のためにはなっていない。農業振興計画はそこに全くメスを入れていない。

### 【竹本会長】

非常に大きな意見をいただいたが、農業経営の面だけを考えると、既に宅地化された土地が農地に戻ることはなく、まとまった農地を市内で手に入れられないから市外に出て行く、で終わってしまう。今ある農地をいかに守っていくかという視点でみると、農業経営だけではなく多角的な経営の中で農業を続けるという考え方もできる。今の若い世代には、都市農業に限らず、一つのことだけではなく色々なことをやって所得を得て生活するというスタイルも出てきている。そう考えると農業の収入と不動産の収入を組み合わせるというのも一つのスタイルだと思う。遠藤委員のご意見は一方の真理であり、貴重なご意見に感謝するが、少し広い視点で考えてみたい。

石井委員お願いします。

### 【石井委員】

冊子案については中間報告としてまとまりが良く見易いと思います。私は福祉関連団体の立場でお話すると、オリパラを契機に川崎市でもパラアートに注目されるようになり、先日はスタジオフラットという幸区にある障がい者施設の利用者が、元住吉にある高喜商店という歴史のある海苔屋さんが開発した香辛子の味付けをした海苔のパッケージデザインを手掛けた例がありますが、香辛子をイメージした非常に明るいデザインに仕上がっている。例えば、農業振興計画の基本戦略 3>目標 3>かわさきそだち認知度向上は達成度 3 ですが、こういうところでパラアートとコラボしていければ認知度向上にもつながるのではないかと思う。

### 【竹本会長】

一巡りご意見を伺った中で、堀委員の発言にあった基本戦略 1>目標 1>今後の方向性は、新規就農者等への技術支援体制の方向性なのに、ブランド化の記載となっている。かわさきつや菜には触れるべきだが、どこか別の場所に入れた方が良いと感じた。すると今度はここに入れるものが必要になってくるので、新規就農者等への技術支援体制に相応しい方向性を再検討すべきだろう。

次に新堀委員が仰った「コンパクトシティ」や「マスタープラン」など難しい言葉を一般

的な言葉に置き直すことも必要。

石井委員が仰ったパラアートとのコラボについては、冊子中にイラストを入れ込めるようなことができれば「やっているな」という印象が出るのではないかと思う。

他に7ページまでで何かご意見ございますか。

#### 【岩井委員】

細かいことだが、**基本戦略1>目標1>実績**の環境保全型農業の普及については、例示がないので具体例を書くと良い。また、「病虫害防除手引きの指導」という日本語は不自然なので記載を修正すべき。

実績欄の記載で「令和2年度時点」などの記載があるものと期日記載が無いものが混在しているので統一すべき。遡って**資料2-2>資料左側の箱>実績**の中には、「年度末時点」と「年度時点」が混在している。

**基本戦略2>目標2>実績**の記述をみると「延べ活動『日数』を達成しました」という記載に対する実績値が「992『人』」となっており、遡って**資料2-2>基本戦略2>目標2>実績**の資料左側の箱をみると援農ボランティア「活動『人数』」と記載されており、対応する資料右側の箱には「活動『日数』」とある。人数なのか日数なのか明らかにすべき。

**基本戦略3>目標3>実績**に「新鮮・安全・安心な」という記述があるが、消費者にとって「新鮮・安全・安心」は基本的なことであり、体に良いとか栄養面で優れているとかを加えられると良い。エビデンスを付けるのが難しいかもしれないが消費者へのインパクトが強い。「医食同源」から「医食農同源」と理解して頂くようにできれば良い。

**基本戦略4>目標2>実績**の記述の末尾に「市民向け農業体験事業を『継続』していきます」とあるが、遡って**資料2-2>基本戦略4>目標2>実績>資料左側の箱>②**の「体験事業を『拡充』する」とあり、拡充から継続へトーンダウンしているのではないか。

#### 【竹本会長】

非常によくみていただいております、ありがとうございました。今、幾つかご指摘があったうちの言葉が違っている部分については直していく。

目標値に対する実績値の表現に関しては、例えば目標値に対して1.5倍などの達成率を示す方法もあろうかと、岩井委員の発言を聞いていて感じた。ただ今の件で事務局から何かありますか。

#### 【事務局：伊東課長】

多くのご指摘をいただいたので、事務局で全て整理して、修正すべきものはさせていただきます。

#### 【竹本会長】

越畑委員は遅れて来られたが、1 ページから 7 ページの部分への感想を伺いたい。

**【越畑委員】**

私が気になったのは「かわさきつや菜」のこと。生産者はほとんど知らないし、セレサモスに行っても見かけないし、どうなっているのか。

また、基本戦略 2 の農業振興地域について、私の居る黒川東は比較的不耕作地はないが、農地の貸借とか集約という際には認定農業者とかではなく地域の人間に使って欲しいと思っている。

**【竹本会長】**

あと何か意見ございますか。

**【長谷川委員】**

私の感覚だと、農地法・農振法など、また国や県、農業委員会や農地課などの農業推進方針は概ね 5 年ごとに見直され、来年あたりが見直し時期かと感じている。私は、農業人が農業で成功していけば後継者もできると考えているので、そのことをこの場で申し上げたい。

**【竹本会長】**

長谷川委員ありがとうございました。

堀委員お願いします。

**【堀委員】**

達成度の数値について、例えば基本戦略 3>目標 2>達成度の「3」は、実績欄の記述のどこを評価したのか、農業技術支援センター加工実習室の活用回数なのか、広がりが限定的なことなのか、同じく基本戦略 3>目標 3>達成度の「3」は、直売会や料理教室の開催回数が少なかったのか、あるいは「かわさきそだち」認知度が低かったからなのか。

**【竹本会長】**

ありがとうございました。いまの話は、認知度の目標 40%の目標に対して 28%にとどまっていることを未達成であると評価しているのに対して目標値がない項目ではどういう評価をしたのかという趣旨の質問か。

**【堀委員】**

認知度についても、直売会などの回数が少なくて認知度が低かったことの評価なのか、単純に認知度の評価なのか。

【竹本会長】

事務局いかがですか。

【事務局：伊東課長】

農業振興計画策定時に目標数値を定めた項目と無い項目があり、目標値があるものについては目標値に対する達成度、無い項目については定性的評価、混在するものは総合的に判断している。

【竹本会長】

堀委員の質問と事務局の説明を聞くと、もしかしたら例えば基本戦略 3>目標 3>実績の直売会や料理教室の記述にはカッコ書きの開催回数がない方が分かり易いかも。目標値が無いのに実績値を入れてしまうと評価が問われるのではないか。

次に新堀委員お願いします。

【新堀委員】

基本戦略 3 のページに「かわさきそだち」の記述があるので、せっかくなので菜果ちゃんのイラストを掲載して欲しい。市民の中には「見たことある」という方がいると思う。

【竹本会長】

事務局の方で掲載可能であれば載せて欲しい。

次に梶委員お願いします。

【梶委員】

コロナ禍で食糧輸入が滞るなどの状況も経験した今 JA グループでは「国消国産」ということを言っているが、これは先ずは自分たちの食べるものを何とかしましょう、その先には岩井委員が仰った健康に良いとか医食農同源などにも通じると思う。中間総括の中にコロナ禍への言及が無いので、動きが変わってきたことに触れた方が良いのではないか。

【竹本会長】

ありがとうございました。梶委員のご意見を伺っていて思ったのですが、基本戦略 3>目標 3>実績の「新鮮・安全・安心」のところに岩井委員の仰るような具体的な効果を記載するのは難しいので、2,3 ページのあたりに、コロナに限らず気象状況なども含めて不安定性が増しているなかで、安定軸という視点で都市農業・農地を入れるというのもあるかなと感じた。

それでは最終ページに話を進めたい。先ほど堀委員から農地面積のグラフが見辛いとの意見があったので心に留めた上で、委員会の意見ということでどんなキーワードが浮かん

でくるのか伺っていきたい。

先ず、**基本戦略 1 持続的・自立的な農業経営**、**基本戦略 2 農業振興地域等の活性化**のところ、皆さんのご意見を伺っていて、大事なことは担い手だと感じた。それは認定農業者だけでなく農業を生業にしている多くの人がいて、一方で高齢化だとか後継者がいないということが起きているわけで、これに対してどういう対策を立てていけば良いのかということについて、前回議事録では越畑委員が「新たな営農者の発掘」と仰っていたし、新堀委員は「若い人たちの活躍」と述べていた。岩井委員はビジネスという視点で農業経営の継続という点に触れられていた。ビジネスとしての農業と生き方としての農業の両方あると思うが、両方がうまく噛合って川崎の農業を維持するのだと思う。長々述べてしまったが、委員会の意見として**基本戦略 1**にどのようなキーワードを入れるべきか。

#### 【越畑委員】

私たちが農業をやる中で仲間が大切、女性で加工品を作ったりも含めて、若い人も一緒にではなく、若い人同士の仲間づくりを進めた方が良い。市や農協も積極的に支援して欲しい。

#### 【竹本会長】

ありがとうございます。冊子案に提示されている円グラフをみると、農産物販売金額のグラフからは農業経営の所得向上への支援が必要と連想され、一方で販売金額が少ないとだめなのかということそうではなく、色々な人が参画すべきだし、新しい人が入ってくるときの受け皿があるといいかもしれない。若い人という括りだけでなく、既にあるあかね会のような女性の仲間だったり、色々あって良いかもしれない。

本日ご欠席の方からの意見を事前に貰っているということだが、**基本戦略 1**に関する意見があれば事務局から紹介願う。

#### 【事務局：田中係長】

書面参加をさせていただいている委員のご意見のうち**基本戦略 1**に関する部分をご紹介します。

徳田委員からは「現行の計画推進のとおり、新規就農者、認定農業者に対する技術、経営等多様な視点からの支援体制の強化を進めることで、彼等の経営基盤をより持続的・自立的なものにし、その担い手をさらに確保していくことが求められます。」

大西委員からは「全体的に実績が目標を多く上回っていて素晴らしいです。農業経営体数の増加に向けた支援などが充実していた結果ではないかと思えます。」とのご意見をそれぞれいただいています。

#### 【竹本会長】

ありがとうございます。堀越委員いかがですか。

**【堀越委員】**

基本戦略のどこに入るのか、また意見として記述して良いかはわからないが、農業をビジネスとして考えるか、暮らしで考えるかで違うと思う。暮らしで考えるなら1軒当たり農地は小さくて良いが、ビジネスであれば規模がないと難しいと思う。都合の良いデータがあるか分からないが、8ページ真ん中の経営主年齢階層別のグラフに経営耕地面積が加わったようなグラフで、60歳以下の経営主が60%~70%くらい農地を持っているのが理想ではないかと考えており、そのためには農地の集約化が必要になると思う。

**【竹本会長】**

ありがとうございます。規模というと横の拡大のほかに縦というか、集約度があると思うが、そのあたり新堀委員いかがでしょうか。

**【新堀委員】**

今から農地面積を増やすのは難しいと思うが、農業技術が発達しており、小規模でも工夫できる面がある。うちも小規模だが上手くハウスを使うことで収量を上げるなど面積を補っている。

**【竹本会長】**

ありがとうございます。そのあたりは正に技術支援というところになると思う。お二人の意見を考え合わせると、場所によっては面積の拡大を図れるところもあるかもしれないが、そうでないところでは集約度を高めることで収益を高めることを考えることになるかもしれない。言葉は後程考えるが、いずれにしても農家の方の経営力というか収益力を高める内容はキーワードとして必要だと思う。

**【遠藤委員】**

確認したいことがある。限られた面積の有効活用の方法として植物工場は有得なのか、梶委員にお聞きしたい。

**【梶委員】**

農業人が植物工場をやるという前提で言うなら、農協で植物工場に取り組んでいるところがあるが、多額の投資が必要で補助金を貰っても採算が取れない。農業人が植物工場をやるのは難しいと思う。

**【竹本会長】**

明治大学にも小規模な植物工場研究センターがあるが、植物工場というのはエネルギー

との絡みになってくるので、路地というか太陽光が効率的だと思う。黒川農場にある植物工場では苗だけ育ててハウスに移植する状況。

ところで、川崎市の特徴として市街化調整区域、農業振興地域があることが一つあげられると思う。**基本戦略 2**の農業振興地域等の活性化の意見に移りたい。農業振興地域に関しては農業者の委員からも既に多くの意見をいただいている。農業振興地域に特化した議論が必要との意見もあった。当委員会では両方が対象になり、農業振興地域「等」の文字があるので農業振興地域だけではない。まずは農業振興地域についていかがか。前回の委員会では越畑委員から「収益向上のために6次産業化といっても容易ではない」「援農ボランティアは労働力として不十分」といった話が、堀委員からは「援農ボランティアには報酬が出た方が良いのでは」という意見があった。書面での意見はあるか。

#### 【事務局：田中係長】

書面参加をいただいている委員のご意見のうち**基本戦略 2**に関する部分をご紹介します。

徳田委員からは「現行の計画推進のとおり、「都市にあるべきもの」として、市街化区域内の生産緑地の適切な維持・保全を進め、意欲ある農業者を支援するためにも、特定生産緑地制度の周知徹底、都市農地の貸借・集約をさらに進めること。また、農業振興地域を含め、特に高齢化が進むことで生じる可能性の高い遊休地の発生・拡大をできるだけ抑えるためにも、援農ボランティアに止まらず、新たな就農者、既存農業者の支援を進めていくことが求められます。」

大西委員からは「援農ボランティア活動が大きく実績が高いなか、農業への興味を持つ人が多くなったのではないかと思います。」とのご意見をそれぞれいただいています。

#### 【竹本会長】

ありがとうございます。この委員会の意見として基本戦略 2 に盛るべき項目ですが、越畑委員いかがでしょうか。

#### 【越畑委員】

農業振興地域内に暮らす者として、都市の中でこのような素晴らしい環境の中で暮らすことに感謝したいし、次の世代に引き継がなくてはと思う。市街化区域農地には2020年問題があるが、調整区域の広い農地に対しても様々な開発圧力があるので、都市化されないよう農業をきっちりやる必要があると思う。これは私見だが、同じ地域の人の中でも昭和40年代の都市計画によって格差が生じている実態があるが、30年以上経た今は過去の判断は良かったと受け止めるべきだと思う。農業というのは長いスパンで取り組むものであり、新たな判断は次の世代に任せる気持ちでいる。

### 【竹本会長】

ありがとうございます。川崎市にとって農業振興地域は非常に大切な農業、緑地としての空間であり、それを維持していくためには農業経営が継続していく必要があります、そのために市と農協がさらに連携する必要がある。もう一つは、援農ボランティアの話が出ていたが、もっと本格的にという語弊があるが、担い手として市民等がどう関わっていくか考えて行くことが重要だと感じた。

次に「等」とあるので、市街化区域の生産緑地の問題を考えたいが、特定生産緑地の制度を活用して市街化区域の農地が維持されるよう取り組む必要があります、農業振興地域も生産緑地も両方必要だというようなことが、皆さんの意見から導き出させると思うがいかがか。

### 【秋元委員】

若者としての意見だが、農業振興地域の活性化ということなら、若者だったり、担い手を増やすことが大きなテーマだと思っているので、援農「ボランティア」という表現に大きな違和感を感じる。活性化しようとするのなら、もっと働き方とか、生き方とか、農のある生活というような、若者が魅力を感じるような提案が必要なのではないか。例えば古民家を改装して魅力ある施設として整備するとか、単に農地として畑をどうしていくかという議論ではなく、町として活性化させていくサポートがあると良いと感じる。

### 【竹本会長】

ありがとうございます。今の話は、次の世代、若い世代が農業だけでなく農のある暮らしに触れる場を作り、新たな担い手、次の世代に繋ぐ環境づくりをしていくということで「新たな担い手」などの表現を入れていくということかと思った。

次に基本戦略 3,4 には、前回たくさん意見を頂いている。堀委員から「近くで育った食べ物を食べられる環境は良い」、秋元委員からは「多面的機能を強調すべき」、他にも「ブランド化には知ってもらうことが必要」という意見などがあつた。欠席の方の書面意見はあるか。

### 【事務局：田中係長】

書面参加をしていただいている委員のご意見のうち基本戦略 3,4 に関する部分をご紹介します。

徳田委員からは「基本戦略 3 は計画全体の目標達成の鍵を握っています。特に「地産地消」による「新たな農業価値の創造」をさらに指向する必要があります。市農産物のブランド力を高め、市農業生産者と JA、大手・地元流通業を通じて市消費者とのパイプをさらに拡大・発展させていくことが喫緊のテーマとして求められています。」

大西委員からは「「かわさきそだち」のパンフレットを作成し PR 活動等を実施していたのかと思いますが、それを見た人は、インターネットで情報を集めることが多いのではないかと思います。今後、インターネット、SNS での発信も平行して増やしていくと認知度が

上がるのではないかと思います。」

牧野委員からは「かわさきそだちのブランド化については JA との連携だが、川崎市と JA でバラバラなのでもっと力を入れて連携をする必要があると思います。」とのご意見をそれぞれいただいています。

**【竹本会長】**

ありがとうございます。今のご意見と前回のご意見を合わせると、キーワードの一つは「地産地消の推進」だが、もう一つは「認知度」だ。新堀委員から冊子に菜果ちゃんを載せるという意見をいただいた。岩井委員からは前回「販路拡大」のお話があった。他にご意見いかがですか。

**【堀委員】**

総合的なことだが、市民や子供が農に触れる機会を増やしたいが、芋ほりなどのできる場所を探すにも個別に問合せが必要なので、ワンストップでどこで体験できるかわかるようになるが良い。市民農園についても同様。例えば、最初はシェア畑で指導付きで始めて、次は小規模な区画貸し農園、将来定年したら農業を始めるなど、ステップアップしていくような案内ができると良いと思う。

**【竹本会長】**

ありがとうございます。情報の集約化ということだと思う。

今後は、今日のご意見を踏まえて、事務局の方で整理して紙面に載せていく流れになる。

**【事務局：伊東課長】**

事務局で作成した再修正案については、各委員に郵送してご自宅でご確認いただく形で調整させていただきたいがよろしいか。

**【竹本会長】**

異論無いようですので事務局提案の調整法で進めさせていただきます。

次に、事務局から「令和 4 年度 委員改選について」説明願います。

**『3 令和 4 年度 委員改選について』**

**【事務局：伊東課長】**

令和 4 年度 委員の改選について、**資料 3**委員改選スケジュール、**資料 4**市民公募チラシ案、**資料 5**各団体宛次期推進委員推薦依頼文案、に基づき説明。

**【竹本会長】**

ありがとうございました。

最後に「その他」で何かございますか。

#### 『4 その他』

【事務局：田中係長】

事務局から皆さまに、中間総括冊子の表紙の案として、お手元に2種類お配りしています。出来上りをイメージすることは難しいと思いますが、どちらが良いかお諮りして、進めさせていただきたい。

【竹本会長】

それでは、挙手していただきます。

ブルーの方が良いと思う委員の方。緑の方が良いと思う委員の方。

【事務局：田中係長】

ありがとうございます。緑の方が多数ですので、そちらで進めさせていただきます。

【竹本会長】

これで第2回推進会議を終了します。

予定時間を超過したことをお詫びいたします。

以上